

絵本の評価の留意点

I. テーマ・構想について

1. 感 動 生き生きとした、健康的な人生観が感じられるか。
読者の共感をよぶものであるか。
2. おもしろさ 教訓的、説明的であったり、単調だったりすることなく、愉快さ、おかしさ、楽しさが自然に伝わってくるものであるか。
ナンセンスについては、ただ意味をなさない、というのではなく、通常の論理を超えたところに面白さがあるのかどうか。
3. 独創性 ありきたりな固定観念にとらえられたものでなく、独自の世界を創り出しているかどうか。着想がユニークで新鮮な印象を与えるかどうか。
4. 描く必然性 手軽に安易につくられたものではなく、作者の意気込み、熱意が感じられ、説得力があるかどうか。
5. わかりやすさ 不自然であったり、作者のひとりよがりではなく、読者の心が作品の中に入っていけるものであるかどうか。

II. 絵について

1. 色 明度、彩度、色づかい、色のコントラストは適確であるか。
2. 構図・デッサン 各場面にふさわしい構図であるか、もりこみすぎ、省略しすぎになっていないか。
3. 技法・画材 技法・画材はテキストをより適確に表現することになっているか、その技術はすぐれているか。
4. 表情の有無 登場人物の個性が魅力あるものに描き分けられ、その表情が生き生きとした動きを持っているか。
5. 場面の展開と構成 時間的流れに不自然さがなく、展開のドラマ性が考えられているか。各場面の明暗、遠近のコントラストが充分配慮されていて、統一のとれた構成になっているか。描きこみすぎて想像する余地がないというのではなく、豊かなイメージをふくらませることができるか。
6. 独創性 類似的な先行作品を思い出させたり、画一的イメージを抱かせたりするものでなく、独自の味わいを持ったものであるか。
7. 内容との調和 絵がストーリーを物語っているか、テキストと調和しているか、ストーリーのポイントをよく表わしているか。テキストのイメージをふくらませているか。

Ⅲ. 文について

- | | |
|-----------|---|
| 1. ストーリー性 | 起承転結がはっきりしていて、わかりやすく簡潔なストーリーか、単調、類型的、教訓的、説明的でなく、緊迫感があり意外性のあるストーリーか。深み、奥行き、迫力の感じられる文学性に富んだものか。 |
| 2. 文 体 | はぎれがよくリズム感があるか、美しいことばか、ひとつひとつの言葉を大切にして、文章に工夫がこらされているか、読みきかせに適しているか、会話は生き生きとしているか。 |
| 3. 登場人物 | 個性的で親しみの持てる魅力ある人物を創り出し、その人物の気持ちをよく書きあらわしているか、必要以上に沢山の登場人物がいらないか、読者の心をとらえ、共感をよび追体験できるものであるか。 |
| 4. 独創性 | 独自の発想に基づく、ありきたりでないストーリーが独特の文章で綴られ月並みでないキャラクターを生み出しているか。 |
| 5. 絵との調和 | 絵が物語る余地を残したむだのないテキストか。 |

Ⅳ. 装丁・製本について

- | | |
|-----------|--|
| 1. 絵と字の配置 | 字が多すぎたり、文と絵が重なって読みづらいということなく、ゆとりのあるスペースの中に、絵と字が適当に配置されているか、本全体のイメージとレイアウトが合っているかどうか。 |
| 2. 内容との調和 | 表紙、背表紙のレイアウトは内容と調和しているか、対象に合っているか。 |
| 3. 活 字 | 字体は内容と合っているか、字の大きさ、色は適当か。行間、字間は適当か、誤植はないか、読みやすいか。 |
| 4. 印刷・紙質 | 印刷は鮮明で見やすいか。紙の厚さ、丈夫さ、質、色は適当か。 |
| 5. 大きさ・形 | 内容に合っているか。対象に合わせたあつかいやすい大きさ、形であるか。 |
| 6. 製本 | 子どもの使用、図書館での利用に耐えうるか、あつかいやすいか。 |

Ⅴ. 全体について

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 標 題 | 標題（タイトル）は内容を適確に表しているか。 |
| 2. 対 象 | どの年齢層に照準をおいているのか、わからない作りになっていないか、考えられた対象にふさわしい作品となっているか。 |
| 3. バランス | 全体の内容と個々の表現がうまく調和しているか。 |
| 4. 子どもの視点 | 大人の視点のおしつけにならず、子どもの視点で作られているか。 |
| 5. 作者の意図が伝わっているかどうか | 作者のひとりよがりにならず、その意図するところがうまく伝わっているか、作者の細やかな心配りが生かされた作りとなっているか。 |
| 6. 価格の妥当性 | 本のでき具合（内容・装丁・製本）を総合的に判断して、価格は適当であるか。 |

フィクション（文学）の評価の留意点

I. テーマ・構想について

- | | |
|----------|---|
| 1. 視点・姿勢 | 大人の視点にかたよることなく、子どもの視点に立ち、子どもの生活に密着したものであるか。人生について、その真実の姿を誇張したりゆがめたりすることなく、正しく伝えているか。事件のとりあつかい方や解決方法が安易にすぎることはないか。 |
| 2. 独創性 | 発想は類型的で使い古されたものでなく独創的なものであるか。 |
| 3. 描く必然性 | 単なる思いつきでなく、必然性があるか。 |
| 4. 感 動 | 読者の感受性をより豊かにするものであるか。 |

II. 文について

- | | |
|-----------|--|
| 1. ストーリー性 | 起承転結がはっきりしているか、筋の運びに不自然なところがなく、一貫性があるか。こみ入り過ぎたり、冗長に流れたりすることなく、簡潔なストーリーとなっているか。
リアリティがあり、細部がよく書けているか。
健康的で明るいストーリーであるか。
状況説明が充分なされているか。 |
| 2. 文 体 | 内容に合った文体であるか、わざとらしさやまわりくどさのない、簡潔ではぎれのよい文体であるか。
生き生きとして、動きを感じさせる文体であるか。
会話は生かされているか。
適確な言葉で表現されているか。
文体が固く、親しみにくいということはないか。 |
| 3. 登場人物 | 登場人物についての説明が充分なされているか。
人物像が生き生きと描かれているか。
個性的で魅力的な人物であるか。
人物がきちんと描き分けられているか。
登場人物が多すぎることなく、よく整理されているか。
人物像を創りだすうえで、人間性への洞察があるか。
親しみの持てる人物像であるか。 |
| 4. 独創性 | ストーリーが類型的でなく、新鮮味があるか。 |

ノンフィクションの評価の留意点

I. テーマ・構想について

1. 視点・姿勢 着想や表現にオリジナリティがあるか、一面だけに偏らず、公平でいて深みのある内容になっているか。
あつかっている範囲が適度であるか。
表現方法は内容にふさわしいか。
2. 感 動 読者に新鮮な驚きと発見の喜びを与えるものであるか。
3. 対象（読者）との関係 一方的な知識のおしつけやつめこみでなく、読者の自主性が尊重されているか。
対象をきちんと把握しているか。
主題へのアプローチの仕方は対象年齢にふさわしいものとなっているか。
ことば、技術の面で難しすぎたりしないか。
基本から応用へ、論理をふまえて説明されているか。
4. 資料的価値 記録として価値あるものであるかどうか。
増補、改定が適切にされているか。

II. 文（説明・解説）について

1. 表 現 文章が難解すぎず、専門的なものでも簡潔にまとまっていてわかりやすく説明されているか。
文章はよく練られているか、文体は統一されているか。
具体的で、親しみやすい書き方がしてあるか。
専門用語や難しい字が多すぎないか。
2. 内 容 単なる知識（事実）の羅列でなく、読み物として面白く、説得力のあるものとなっているか。
必要事項が落ちていないか。
器具、道具、専門用語等についての説明があるか。
遊びの要素はうまく取り入れられているか。

III. 絵（イラスト・写真）について

1. 色 不鮮明であつたり、コントラストが強すぎたりすることなく、適当な色調であるか。
2. 構図・構成 手順（経過）がわかりやすいようになっているか。
さし絵の量、大きさは適度であるか。

- 3. 資料的価値 絵が粗雑であったり、安っぽくないか、写真、絵画は美術性をそなえているか。
写真・図版は正確で、資料的価値があるか。
- 4. 内容との関係 内容に合ったさし絵であるか。
絵によってことばの持つ広がりや深みをせばめていないか。
- 5. 参考資料 必要と思われる資料（さし絵・地図・図表・グラフ・楽譜など）がついているか。
図解や表示がわかりやすいものであるか。
資料は最新かつ正確な情報であるか。
資料の出典、参考文献が明記されているか。
索引語の選び方が適切であるか、また便利に利用できるようなっているか。

IV. 全体について

- 1. 実用性 説明が親切で詳しいか、作り方は正確でわかりやすく記されているか。
具体例、実例がもりこまれているか。
実際に入手しやすい身近な材料、器具を用いているか。
できあがった作品が実際に利用できるか。
- 2. 構成・編集 章立てが適切であるか。
画面構成、レイアウトがすっきりしていて見やすく、実用する際に使いやすいものであるか。
- 3. 印刷 見にくい色で印刷されていないか。

V. 装丁・製本について

- 1. 装丁 装丁が内容に調和しているか。
- 2. 製本 見ながら作ったりする本の場合、あつかいやすいように考慮されているか。
子どもの使用、図書館での利用に耐えうるか。